

あんな本・こんな本

2021年10月28日発行 No.85

ボランティアによる新着図書・資料案内

この号では女性教育情報センターに2021年4月～9月に新しく受入れた資料の中から、ボランティアが選んだ本を紹介し、新着の全資料は下記の文献情報データベースからご覧いただけます。

https://winet2.nwec.go.jp/bunken/cgi/newbook_cal/opac_newbook_cal.cgi

読んでみました

生きるためのフェミニズム：パンとバラと反資本主義

堅田香緒里著；タバックス 2021年

[リスト No.17]



「パンをよこせ、バラもよこせ！」20世紀初頭、アメリカのある地方都市で移民労働者たちが行ったストライキの際、ある女性がプラカードに掲げていた言葉である。パンとは生活の糧であり、バラとは人としての尊厳である。この言葉は、私たちの生活や労働を徹底的にむしばもうとするネオリベラリズムに抵抗する思想と運動を探ろうとする、本書のキーワードになっている。

たとえば、「インターセクショナルリティ」の問題を取り上げてみよう。「差別の交差性」と訳されるこの言葉は、複数の差別を加算していくような「足し算」方式では理解できないという。黒人女性は黒人として人種差別を受け、女性として性差別を受けるのではない。差別を単純化・標準化することはできないのだ。

ではどうやって多様な差別と闘うのか。著者は一つの例として「セーフスペース」を挙げる。女性にとって完全に安全な場所などない。それより、それぞれの場で「より安全な空間のポリシー」を共有しようという、いわば柔らかい抵抗のかたちである。どんなに厳しい現実にあっても、必ず軽々と抵抗する者がいる。著者の若いころ、ホームレスの人々と共に過ごした日々なぜ、その社会に共感しコミットしたのかは本書に詳しく述べられている一の中から著者が得た確信である。

[YK]

ナイチンゲールはフェミニストだったのか

ナイチンゲール生誕200年記念出版；ナイチンゲールの越境；3.ジェンダー

河村貞枝 [ほか] 著；日本看護協会出版会 2021年

[リスト No.21]

2020年はナイチンゲール生誕200年とのことで、本書はそれを記念し日本看護協会から出版された3冊からなるシリーズの1冊である。ちなみに、シリーズ1は「建築」、2は「感染症」をテーマとしている。

「白衣の天使」と称えられているナイチンゲールであるが、彼女の生きたヴィクトリア朝の英国では、「女性である」というだけで社会活動が制限されていた。そのような現状を打破したいと、自ら行動を起こし、「看護」を科学的に学問として確立させ、専門職として高めた。その功績は偉大であり、実際、現在の看護教育においても、彼女の著した看護論は基本原理として用いられている。

本書では、様々な領域の専門家の視点から、ナイチンゲールとジェンダー論について考察がなされている。ヴィクトリア朝の英国で盛んだったフェミニズム運動、女性の政治的権利獲得運動とナイチンゲールの関係を考える書である。

[MH]



人は見た目!と言うけれど : 私の顔で、自分らしく

外川浩子著 ; 岩波書店 2020年

[リスト No.14]



著者の外川浩子さんは「マイフェイス・マイスタイル」という団体を立ち上げ、外見からくるさまざまな困難を『見た目問題』と名づけ、問題解決を目指した講演などの活動をしている人である。本書には脱毛症やアルビノ、口唇口蓋裂などの『見た目問題』と向き合った7つの事例が紹介されている。

その中の一つ、あるアルバイト女性のケースを自分にも起こりうる身近な問題として読んだ。その女性は休日に友達と遊園地に出かけ、追いかけるお化けから逃げるといってお化け屋敷に入った。夢中で逃げるうちにセットの隙間に小指が刺さり必死になって抜いた結果、先端部分を失う災難に遭う。失意の日々であったが、エピーテーズという人工装具に出会ったことにより生き方を変えることができた。彼女が自らの経験をもとに、似た苦しみを持つ人の心に寄り添いながら前を向いて生きる姿は、頼りがいがあり、素敵である。

特に自分の外見を気にする年頃の皆さんに読んでほしい一冊だと思った。同時に、『見た目』を多様性のひとつとして受け入れる社会になれば、当事者の悩みも軽減するのではないかと感じた。 [MN]

母がしんどい

田房永子著 ; KADOKAWA 2020年

[リスト No.22]

タイトルからすると母親の側からの体験談かと思ったら、さにあらず、でした。作者は漫画家であり、ゆる〜いタッチの絵のこのコミックエッセイは、娘が母親から自立を成し遂げた体験を描いた本です。親は良かれと思ってやっていることが、娘にはそうではなかった、という話なのです。私は作者である娘さんに「おめでとう」と言います。無事に母親離れできてよかったね、と。母親にも、やはり、「おめでとう」と言います。娘さんは自立した一人前の女性に育ってよかったね、と。



いい時代になったものです。70年代末、「母原病」という言葉が社会に出ました。ワンオペで必死に子育てと仕事をこなしていた私には、刺さる言葉でした。母親からの自立の問題を語る時に「母親を棄てなさい」もありました。「毒親」という言葉も出現、母性という言葉には、女性は愛情豊かに子育てすべきものという社会通念がありました。そして子供に何か問題が起こると母親がやり玉に挙げられるのです。不利だな、理不尽だなと思いつつ生きてきました。

かく言う私は娘から「毒親」と言われ、しかも「愛情を注いでくれたのはわかるけど」というおまけ付きの言葉までもらった母親です。この本を自分の中で消化するのには時間がかかりました。お陰様で、また一つ人生の切り替えができました。

私を含めた世の母親よ。あきらめるな、がっかりするな。娘に子育て批判を言われたら「娘の母親からの自立」だと理解して祝いましょう。著者にしても母親にここまで言えたことを祝ってください。だって本当に母親に乗っ取られていたら、娘は、友だちを始め、社会での人間関係は築けなかったはずだから。著者はわかっているはずです。だからこそ本著を世に出せたのだと思います。

女性の皆さん、読んでみてください。そして悩んでみてください。悩み考えることこそ読書の醍醐味です。人生100年、前進しましょう。 [JK]

日記がひらく歴史のトビラ : 特集(Rekihaku ; 003)

国立歴史民俗博物館, 三上喜孝, 内田順子編 ; 国立歴史民俗博物館 2021年

[リスト No.8]



本書は、「歴史を語る史料」としての日記に注目しながら、様々な時代の日記を紹介している。紀貫行が発明したとされる“かな日記”は、実はそれ以前に藤原穩子という後醍醐天皇皇后となった人が書いたものがあるそうだ。近世の日記では、1846(弘化三)年の江戸・吉原の遊女日記を通して、遊郭内での彼女たちの待遇や、雇い主による暴力が暴かれる。文字教育を受けていない彼女らが独学で、話し言葉で綴る事実には辛いものがある。そして遂に16人の遊女たちは、楼主への抗議としての放火を遂行したのだ。また、戦時中、太平洋のマーシャル諸島で餓死した兵士の日記は、数奇な運命を辿り家族の元へ帰ったが、国の戦死公報よりも正確な仲間の死が描写されているという。他にも「個人の日記を社会の遺産にしよう」という活動のことも書かれている。日記は読まれることを前提に書かれたものや、そうでないものもある。しかし何れもありのまま綴ったものが多い。日記を通して史実とすり合わせるのも興味深い。

いつの日か、あなたのコロナ禍日記が文化遺産になるかもしれません！

[MH]

2021年4～9月 に情報センターが新たに受入れた図書からボランティアが選んだ本です。

	書名・副題 / 著者・編著者名	出版社	出版年月	請求番号
1	特集女性記者の現在地(Journalism = ジャーナリズム ; no.372) 朝日新聞社ジャーナリスト学校	朝日新聞社ジャーナリスト学校	2021.5	070/J76
2	哲学の女王たち : もうひとつの思想史入門 レベッカ・バクストン, リサ・ホワイティング編 ; 向井和美訳	晶文社	2021.5	102/Te86
3	他者の靴を履く : アナーキック・エンパシーのすすめ ブレイディみかこ著	文藝春秋	2021.6	141.6/Ta93
4	あおいらくだ 茂田まみこ, 長村さと子作 ; 楓真知子絵	北樹出版	2020.1	141.9/A52
5	ボクは食器洗いをやっていただけで、家事をやっていなかった。 土屋礼央著	KADOKAWA	2021.3	159/B63
6	自分をもっと大切に : 91歳現役産婦人科医が「医師として」「人生の先輩として」伝えたいこと 堀口雅子著	あさ出版	2021.3	159.6/J46
7	わたしは無敵の女の子 ケイト T.パーカー著 ; 栗木さつき訳	海と月社	2021.4	159.6/W47
* 8	日記がひらく歴史のトビラ : 特集 (Rekihaku ; 003) 三上喜孝, 内田順子編	国立歴史民俗博物館	2021.6	205/R25
9	きょうりゆうレディ : さいしよの女性古生物学者メアリー・アニング リンダ・スキアース作 ; マルタ・アルバレス・ミゲンス絵 ; まえざわあきえ訳	出版ワークス	2021.7	289/Ky5
10	ブラック・ライヴズ・マター回想録 : テロリストと呼ばれて パトリス・カーン=カラーズ, アーシャ・バンデリ著 ; ワゴナー理恵子訳	青土社	2021.3	289.3/B91
11	ハーベン : ハーバード大学法科大学院初の盲ろう女子学生の物語 ハーベン・ギルマ著 ; 斎藤愛, マギー・ケント・ウォン訳	明石書店	2021.5	289.3/H11
12	女たちのポリティクス : 台頭する世界の女性政治家たち ブレイディみかこ著	幻冬舎	2021.5	312/O66
13	ガールズ・メディア・スタディーズ 田中東子編著 ; 竹田恵子 [ほか執筆]	北樹出版	2021.6	361.4/G24
* 14	人は見た目!と言うけれど : 私の顔で、自分らしく 外川浩子著	岩波書店	2020.11	361.4/H77
15	男性育休の教科書 : 男性育休義務化の基礎知識 日経xwoman [編]	日経BP	2021.4	366.3/D38
16	脱セクシュアル・ハラスメント宣言 : 法制度と社会環境を変えるために 角田由紀子, 伊藤和子編著 ; 井上久美枝 [ほか] 著	かもがわ出版	2021.4	366.3/D44
* 17	生きるためのフェミニズム : パンとバラと反資本主義 堅田香緒里著	タバックス	2021.7	367.2/I36
18	こどもジェンダー シオリーヌ著 ; 村田エリー絵	ワニブックス	2021.5	367.2/Ko79
19	#駄言辞典 : 早く絶版になってほしい 日経xwoman編	日経BP	2021.6	367.21/D13
20	限界から始まる : 往復書簡 上野千鶴子, 鈴木涼美著	幻冬舎	2021.7	367.21/G34
* 21	ナイチンゲールはフェミニストだったのか (ナイチンゲール生誕200年記念出版 ; ナイチンゲールの越境 ; 3 . ジェンダー) 河村貞枝 [ほか] 著	日本看護協会出版会	2021.5	367.233/N28
* 22	母がしんどい 田房永子 [著]	KADOKAWA	2020.2	367.3/H14

23	13歳、「私」をなくした私：性暴力と生きることのリアル 山本潤著	朝日新聞出版	2021.4	367.3/J98
24	事実婚と夫婦別姓の社会学 阪井裕一郎著	白澤社	2021.5	367.4/J49
25	女ふたり、暮らしています。 キム・ハナ、ファン・ソヌ著；清水知佐子訳	CCCメディアハウス	2021.3	367.4/O66
26	我は、おばさん 岡田育著	集英社	2021.6	367.7/W38
27	子どもと性の話、はじめませんか？：からだ・性・防犯・ネットリテラシーの「伝え方」 宮原由紀著；高橋幸子監修	CCCメディアハウス	2021.7	367.9/Ko21
28	みんな自分らしくいるためのはじめてのLGBT 遠藤まめた〔著〕	筑摩書房	2021.6	367.9/Mi44
29	3人で親になってみた：ママとパパ、ときどきゴンちゃん 杉山文野著	毎日新聞出版	2021.4	367.9/Sa65
30	思春期女子のからだと心Q&A 八田真理子著	労働教育センター	2020.11	367.9/Sh91
31	ティーンズ・ボディーブック 北村邦夫著；伊藤理佐イラスト = TEENS' BODY BOOK	中央公論新社	2021.2	367.9/Te26
32	マンガでわかるLGBTQ+ パレットーク著；ケイカマンガ	講談社	2021.4	367.97/Ma43
33	コロナ禍、貧困の記録：2020年、この国の底が抜けた 雨宮処凛著	かもがわ出版	2021.4	368.2/Ko79
34	ろう女性学入門：誰一人取り残さないジェンダーインクルーシブな社会を目指して 小林洋子編	生活書院	2021.3	369.2/R62
35	つながり続けることも食堂 湯浅誠著	中央公論新社	2021.6	369.4/Ts75
36	コード・ガールズ：日独の暗号を解き明かした女性たち ライザ・マンディ〔著〕；小野木明恵訳	みずず書房	2021.7	391/Ko21
37	理系女性の人生設計ガイド：自分を生かす仕事と生き方 大隅典子、大島まり、山本佳世子著	講談社	2021.5	407/R41
38	「女医」カリン・ラコンブ：感染症専門医のコロナ奮闘記 カリン・ラコンブ原作；フィアマ・ルザーティ原作作画；大西愛子訳	花伝社	2021.4	498.6/J66
39	料理に対する「ねばならない」を捨てたら、うつ自分を受け入れられた。 阿古真理著	幻冬舎	2021.4	596/R97
40	パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ！：ママの社会進出と家族の幸せのために 前田晃平著	光文社	2021.5	599/P22
41	365日#Tシャツ起業家：「食べチョコク」で食を豊かにする農家の娘 秋元里奈著	KADOKAWA	2021.2	611.4/Sa61
42	挑発する少女小説 斎藤美奈子著	河出書房新社	2021.6	909.3/C53
43	シンデレラとガラスの天井：フェミニズムの童話集 ローラ・レーン、エレン・ホーン著；颯田あきら訳	太田出版	2021.7	933/Sh62



*印の本は **読んでみました** に感想文を掲載しています。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
 国立女性教育会館(NWEC) ☎ 0493-62-6195
 ボランティアルーム内あんな本こんな本」担当